

(様式⑦ 小学校・中学校)

確かな学びと豊かな心・健やかな体をはぐむ 学校力向上プラン【学校評価計画書】

中学校区におけるめざす子ども像 ◎自らを律し、自ら学び続ける子 ◎自ら課題を見出し、解決する子 ◎互いを思いやり、認め合う子 ◎規則正しい生活と運動で、健康的な生活をおくる子	堺市立浜寺石津小学校 校長 廣瀬 努
--	-----------------------

令和7年度 重点目標 ①人権を尊重した心の教育の推進 ②個別最適な学びの充実 ③信頼される学校作りの推進

「確かな学び」の現状(令和6年度全国学力調査結果より) ・全国学調質問紙「自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか」「ICT機器を活用することについて、楽しみながら学習を進めることができる」の項目では肯定意見が平均を上回ったが、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」「各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」「学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」の項目では10パーセント以上下回った。 ・全国学調質問紙「学校の授業時間以外に、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」の項目において30分未満や全くしないと回答した児童の割合が大きい。	「豊かな心・健やかな体」の現状(令和6年度全国学力調査・堺市学調より) ・全国学調質問紙「人が困っているときは、進んで助けていますか」の項目において90％以上の肯定意見があった。一方、「人の役に立つ人間になりたい」と思いますが「友達関係に満足していますか」の項目では府や全国平均を5％以上下回った。 ・堺市学調質問調査の「登校や授業開始の時刻を守ること」についての肯定的回答の割合は、他市町村と同程度であった。一方で、「ていねいでやさしい言葉遣い」については10％程度、下回っている。 ・昨年度の学校評価アンケートで「体を動かして運動するところが好きだ」と答えた児童の割合は85％であったが、地域のスポーツクラブへの所属の割合は市の平均を比べて低かった。
--	--

大項目	中項目	具体目標	具体的な取組 (●重点とする取組 ★中学校区での取組)	判断基準 (評価のものさし)	評価方法	評価時期	進捗確認 (10月)	達成状況(年度末)				
								自己評価	学校関係者評価			
確かな学び	総合的な学力の育成	ICTを活用した授業改善を推進し、情報活用能力を育成する。	児童用タブレットPCを用いた効果的な指導方法を研修・実践し、個別最適な学びの充実を図る。	「タブレットPCを使って学習を進めることができる」児童80%以上	校内アンケート	10月2月	◎	肯定的回答93%	◎ ICTインフルエンサーや本校ICT担当による研修や授業指導、研究授業でのタブレットPCを活用した課題解決学習等により、ICT活用能力が高まった。	○ 低学年からタブレットPCなどのICT機器に親しませることは、これからの社会を生きていく上で、児童にとって有益である。		
		主体的に学ぶ児童を育成する。	●探究的な学習(学びのコンパス)を通して、わかる喜び・学ぶ楽しさを実感することができる授業に取り組む。	「自ら進んで調べ、学習している」児童80%以上	校内アンケート	10月2月	△	肯定的回答71%	△ 「勉強が分かりやすい」と答えた児童の肯定的回答は87%であり、多くの児童がわかる喜びを感じている。今後も、学習意欲を基盤として、自ら課題を持ち、協働的・探究的に学びを進める力の育成の研究を深めていく。			
	基礎基本の定着	読む・書く・計算するなど基礎的な力を育成する。	●「すいすい計算デー」等の取組を通して、思考力と表現力を支える基礎学力となる「計算力」を伸ばす。	3～6年生の単元終了後の評価テスト「知識・技能」の平均点を80点以上	各単元終了後の評価テスト	各単元終了後	△	3年:84点4年:70点5年:76点6年:81点	△ 3年:82点4年:72点5年:80点6年:76点 計算検定やタブレットPCを用いたドリルパークでの復習、1年生から九九の歌に親しませる等の取組を継続したが、学年によって成果に差がみられる。	○ 習得率に学年によって顕著な差が生じないように、全体の基礎学力の向上に努めていただきたい。計算検定により、児童が達成感を味わうことができたことがよかった。		
			読書の回数・場面を増やし、新しい図書を充実させ、本を読む習慣を身につけさせる。	「本を読むことが好き」児童70%以上	校内アンケート	10月2月	△	肯定的回答64%	○ 先生のとっておきの本の紹介や本の福袋、本の帯コンクールへの参加等の取組を通して、「本を読むことが好き」と答えた児童の割合が増えた。		○ 図書室に加えて、学級文庫の蔵書も充実させて、より児童が読書に親しむように、地域・PTAも協力したい。	
			学年ごとに家庭学習の目標時間を決め、学習習慣を身につけさせる。	「宿題は家で忘れずにしている」児童90%以上	校内アンケート	10月2月	△	肯定的回答81%	○ 肯定的回答86% うちタブデーや自学ノート、あのね帳等の実践を通して、家庭学習の習慣を身につけるようにした。保護者アンケートも、85%が肯定的回答であった。			うちタブデーの取組は、今後も継続して家庭学習をより充実していただきたい。
	豊かな心・健やかな体	心の教育の充実	人権教育を基盤とした教育を充実させ、豊かな人間性を育成する。	●「いじめ防止の授業」や豊かな人権感覚を養うための「ジェンダー平等教育」に取り組むことで、安心・安全な集団づくりを推進する。	「思いやりの心をもつことを、教えてもらっている」児童90%以上	校内アンケート	10月2月	○	肯定的回答87%	○ 肯定的回答90% 人権教育の研究テーマを「ジェンダー平等教育」に設定し、職員研修や研究授業等を通して、互いの違いを認め、尊重し合える「あたたかい集団作り」に取り組んだ。	○ ジェンダー平等などの現代的な人権課題に取り組むことは、保護者にとってもよい啓発になっている。	
				「みんなで確認しよう」や「クラスチャレンジ」の取組を通して、学校生活のルールを適宜確認し、基本的な生活習慣を身につけさせる。	「学校のルールを守っている」児童90%以上	校内アンケート	10月2月	○	肯定的回答86%	○ 「あいさつ・ルール・美しく」を合言葉に、毎月の生活目標を設定して自己の行動を振り返らせたり、全校朝会での「ハテナボウ」チェックを継続したりした。SNSの使い方のルール、ネットいじめ防止等の現代的な課題にも今後は取り組みたい。		あいさつに関しては、見守り活動をしていても、以前よりも目を見て挨拶をしてくれる子が減ったと感じている。今年度から始まった中学校生徒会とのあいさつ運動のように、今後も新たな取組を計画して、実施してもらいたい。
				●あいさつ運動を年5回実施し、自分からあいさつできる児童を育成する。	「先生や友だち、地域の方に自分からあいさつしている」児童80%以上	校内アンケート	10月2月	○	肯定的回答78%	△ 肯定的回答74% 本年度より、学校群の取組として中学校生徒会との合同のあいさつ運動を行った。見守り隊の方から「最近、あいさつが減った」とのお声もあり、校内活動を家庭や地域にまで広げて、生活の中で実践することが課題である。		地域の大人が児童の見本になれるように、あいさつの輪を広めることも大切である。
異年齢集団による交流(たてわり活動)を推進する。				「仲よくすることができたと感じる」児童80%以上	校内アンケート	10月2月	◎	肯定的回答87%	○ 肯定的回答83% 10月のアンケートでは目標値を7%上回る等、児童は縦割り活動やクラブ活動を楽しみにしている様子である。保護者の肯定的回答も95%であり、成果が認められる。	いじめ防止については、少数の否定的回答をした児童も見逃さないように、必ずフォローをすることが重要である。		
健やかな体づくり		基本的な生活習慣を身につけさせる。 運動に親しみ、体力を向上させ、体育の授業が好きな児童を増やす。	保健だよりや生活調べ週間等で早寝早起きの啓発を行い、基本的な生活習慣を整えるように取り組む。	3学期の生活調べで、児童の肯定的回答70%以上	校内アンケート	2月	○	学期に1回の生活調べを継続して行い、自分の生活をよりよく改善する態度を育てている。	○ 早寝:68.3% 早起き:73.6% 3割程度の児童が早寝・早起きができていない現状である。特に低学年は保護者の方の協力や家庭での生活習慣が大切になるので、今後も、保健便り等で啓発を続けていきたい。	○ 体力作りに本年度実施した「石津ジャンプアップチャレンジ」のような学級対抗の競争を取り入れることで、成果があがっている。体育参観で得点競技を取り入れることで、児童が積極的に運動に取り組むきっかけになるかもしれない。		
			●授業でのかけ足やなわとびタイム、堺チャレンジランキングへの参加等に取組み、児童の体力を向上させる。	「体を動かして、運動することは楽しい」児童80%以上	校内アンケート	10月2月	○	肯定的回答84%	◎ 肯定的回答87% 冬季に「石津ジャンプアップチャレンジ」としてクラス対抗の大縄大会に取り組むことで、普段は運動場に出ない児童が外で遊ぶ様子が見られた。保護者の肯定的回答も86%である。		眠育・食育などは、家庭でも学校と協力して取り組んでいきたい。	
地域協働	開かれた学校	「石津はひとつ」の合言葉のもと地域と連携し、地域とともに歩む学校づくりを進める。	★学校の花壇などの環境整備、委員会活動、生活科(町たんけん)など様々な場面で地域の方々の力を活用したり、地域の行事に積極的に参加したりすることにより、地域とともに歩む学校づくりを進める。	地域の方からご意見をお聞きする	学校協議委員会	2月	◎	栽培委員会での花ボランティアの活用、校区の文化祭への出品、広域避難訓練への参加等、地域人材の活用と行事への参加を行っている。	◎ 生活科で校区のお店へのインタビュー、総合的な学習の時間で石津校区のいい所探し、認知症サポーター講習会、もちつき大会等、地域人材の活用と行事への参加を年間を通して継続した。	◎ 先生や児童が地域の行事に積極的に参加したり、お手伝いをしてくれたりして大変ありがたい。今後も地域全体で学校を支えていきたい。		

校長より(年度末) すべての項目で教職員全体で共通理解を図り、概ね達成することができた。本校のめざす児童像である「学び続ける子・やりぬく子・思いやる子」の達成にもバランスのとれた教育を工夫して展開することができたが、課題のある項目についても引き続き取り組んでいきたい。さらに浜寺学校群として、2小1中で合同夏季研修や授業研究、各部会での話し合いなど様々な取り組みを行い、子どもたちだけでなく職員同士も交流する機会が増えた。「地域協働」においても、登下校の見守り活動や自治会防災訓練、合同避難訓練、もちつき大会などの地域活動、学校教育活動等の補助などPTA活動も実施することができた。また、可能なかぎり参加をし、地域とともに子どもを育てる体制の確立に取り組むことができた。今後も教育目標である「心身ともに健康で、主体的に取り組む心豊かな子どもの育成」に教職員一丸となってさらに邁進していきたい。	学校関係者評価者から(年度末) アンケートの回答率を上げる方策について、検討する必要がある。また、あいさつの項目について、いろんな方々よりご意見をいただいている。あいさつ運動だけでなく、あいさつの大切さについて、PTAとの連携も図り、模索していただきたい。学校教育活動についても、こどもたちの自尊心が高まるような、心の教育を大切にしたい取り組みを行っていただきたい。さらに、「教育の質を高めるため」の働き方改革には一定理解できる。子どもと向き合う時間の確保ができるような体制を取り組めるように、学校だけでなく様々な関係機関にお願いしたい。今後も学校・家庭・地域が協力・連携を深めて、児童のよりよい成長につながる活動を続けていきたい。
---	---